

月刊反トマホーク通信 No. 12

86.10.20

東京都渋谷区渋谷2-5-9 パル青山502 トマ喰い虫社 ☎03(498)6095



「日米三軍統合演習」

反対の声を上げよう！

10・27～11・1

奇妙といつか、「やはり」といふべきなのか。レイキャビクでの米ソ首脳会談で最後まで話題にすらならなかったことがあって、それは、海洋発射巡航ミサイル（トマホーク）。四千発を実戦配備、うち七九八発が核。米国のこの計画はいかなる軍備管理の制約も受けず、ゴルバチョフの「沈黙」は「我々もやるぞ」との意思表示なのか。

陸上では一定の「管理」、海洋では野放図な核軍拡競争。これが彼等の「暗黙の合意」だ。

核軍備撤廃への可能性はたとえ部分的なものであれ「下からの強制力」の内にしかない。

その力を太平洋の片隅のこの国にしっかりと根付かせるために私たちは進みます。貴方と。（た）

トマホークの配備を許すな！ 全国運動

●維持会員（月間会費）

団体 1口 2000円
個人 1口 1000円

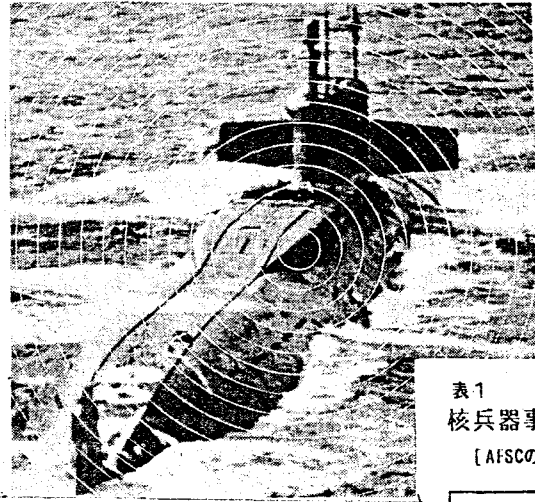
●参加会員（月間会費）

団体 1口 1000円
個人 1口 500円

●通信会員

年間2000円

あなたも仲間！



原潜—原子炉と核兵器の 死のコンビネーション

表1
核兵器事故の発生数(1965-77)
[AFSCの請求により公表された米海軍資料から]

年	1965	66	67	68	69	70	71	72	73	74	75	76	77
重大な事故	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
やや重大な事故									6	3	2	1	
軽微な事故	36	31	21	27	36	26	37	41	33	13	15	19	25
その他											6	1	1
計	37	31	21	27	36	26	37	41	33	19	24	22	27

表2
海軍の兵器システムによる事故発生数
(通常兵器を含む 出典は表1に同じ)

年	空中発射型	水上発射型	水中発射型	計
1965	17	11	6	34
66	15	7	2	24
67	4	12	5	21
68	10	11	5	26
69	13	12	7	32
70	7	12	7	26
71	16	14	8	38
72	17	16	9	42
73	14	16	2	32
74	7	6	2	15
75	8	9	1	18
76	12	5	4	21
77	6	9	2	17
計	146	140	60	346

(注)文中に引用したのは
85年までの数字である。

一九六四年、アメリカの原子力潜水艦シードラゴンが佐世保に入港して以来、原潜寄港問題は日米安保条約にもとづく軍艦寄港問題の原点であった。そして、チェルノブイリ原発事故、ソ連のヤンキー型原潜事故、アメリカの海軍核兵器事故の暴露という今年になって発生した一連の事件によって、この問題は全く新しい様相を示すことになった。アメリカの新海洋戦略の下に西太平洋の緊張が高まるとともに、この問題はアジア・太平洋に共

通の脅威を生み出つつある。
●「東京に原発を」という逆説的コピーがあるが、じつは二日に一日は東京湾に原発がある。横須賀に入港する原子力潜水艦の原子炉がそれである。原潜の原子炉の熱出力については正確なデータが入手できない。しかし、ほぼ十キロワットと考えられる。これは通常の日本の発電炉の10分の1、チェルノブイリ原発の30分の1である。横須賀に寄港中も炉は運転を継続していることが多いと考えら

非核の実質化
全ての基地撤去へ

とも歩もう!

第八回全国会議から

あらためて「日本の非核の実質化へ力強い一歩を踏出そう」と訴えた宣言から一年。その第三次キャンペーン以後を論議する第八回全国会議(京都・部落解放センター、九月二七・八日、参加は京都・熊本・佐世保・福岡・大阪・尼崎・舞鶴・大津・名古屋・東京・横須賀などから三五人)が開かれた。

八月の戦艦ニュージャージーなど三隻の核トマホーク搭載艦の同時入港の後だけに、会場には佐世保の佐々木さんの持ってきたニュージャージーカバ新聞が貼られ、注目を集める。討論も「ニュージャージーの入港を許し

たのは大敗北」(京都)の問題提起から始まった。メリルの入港した呉からは「負けは負けたが、そこから運動をどう根付かせるかが勝負」の発言。佐世保で座り込んだ京都の古田さんも「非核の実質化をかせてたが、できなかった。そして大敗北だからだめ、ではない。座り込みをしていて市民の不安、怒りを実感した。その声をどうつないでいくかが問われている」という。
どうつないでいくのかーさじ加減は難しいが「すこし楽観的に」考えてみればわれわれは多くの可能性を手に入れているといえる。現状報告と提案に立った梅林さんは、第三次キャンペーンの成果として、国会論争での影響力拡大、自治体との新たな関係と攻防、マス・メディアとの協力関係、六・二九コモンデイトにみられる草の根への広がりの兆し、新しい反基地運動の誕生、国際共同闘争の前進などを上げている。ただ、可能性と同時に課題をかかえているのも事実。
われわれの当面する運動方針は①非核の実質化、とりわけ核艦船拒否の実現 ②反基地運動の活性化であると提案された。討論の中で①については講演(日米軍事協力と西太平洋の核軍事情勢)にかけつけてくれた海軍新さんの助言で「指揮・通信基地の撤去を目指す」が追加された。②については、「この秋

の日米三軍統合実動演習にみられるようにガイドライン安保がどこまできているかの客観的認識が反核運動には弱い」(京都)などの討論から、安保の現段階をしめす軍事演習―軍事体制の暴露とそれへのたたかいということから「日米韓共同軍事体制に抵抗し、それを破るための活動に取組む」に集約。しかし、討論では①ほどの具体性はなく、新鮮さがないとの意見も出された。この点は「いままぜ反安保なのかを、自分の言葉で多くの人々が語りだす共通の体験をいまぐろうとしている」(梅林)ということではないか。
二日間の討論は、すこし整理されない点もあり今後反省点を残しながらも、結論として、先にあげた二点を当面の運動方針としながら、第三次キャンペーン以後も運動を継続することを確認。運動の名称と組織体制も現状を継承することも確認。さらに、具体的活動方針を次のように確認した。①秋の日米三軍統合演習反対行動や基地監視に取組む ②チームスピリット87反対行動を準備する ③来年五月末の「海の軍備撤廃のための国際共同行動」に取組む ④非核自治体への働きかけを強める ⑤日本の基地をアジア太平洋民衆の置かれている新しい状況から取らえかえす作業。
(文責 今井明)

(4)

れる。寄港期間が一日程度の場合には炉を切らないだろう。横須賀市民の枕もとでこの原子炉が動いているのである。

●すべての軍艦事故は核兵器の事故につながる。核兵器事故の可能性が現実性をおびて来たいま、非核コード（核の有無の判断基準）なしには、住民の安全に対する基準すら立たない。

AFSC（アメリカン・フレンズ・サービ
ス・コミッティー）が五年にわたる情報公開
法にもとづく裁判で入手した資料によれば、
海軍の核兵器に関連する事故は六三〇件のの
ぼった。一年に三〇件の割合である。その
うち二件は深刻な事故、他は軽微な事故とさ
れているが、軽微なものの例として上げられ
ているのは、たとえば模擬爆弾を空母の艦載

機から甲板に落下させたような事故で、これ
もぞっとするようなものである。

●事故がおきてからの防災対策は立てようが
ない。原潜の寄港を拒否し、非核コードにも
とづいて核疑惑艦の寄港そのものを拒否す
る以外に、核から私たち自身を守術がないこ
とが、あらためて明らかになったのである
（梅林宏道）

28隻の原子力艦船 が寄港

（十月一五日現在）

今年に入ってから日本に寄港した原子力推進艦船はのべ28隻。ニユージャシーの随伴艦でトマホークを搭載したロングビーチをのぞいてすべて攻撃型原子力潜水艦である。そのうち14がトマホーク級のロサンゼルス級とスタージョン級。これは日本列島の核攻撃基地化を物語ると同時に安全性審査の全く及ばない稼働中の原子炉がのべ百五十日間設置されていたことを意味するのである。（資料提供 非核市民宣言運動ヨコスカ）

SSN:攻撃型原潜 CGN:原子力ミサイル巡洋艦
ロス:ロサンゼルス級 スタ:スタージョン級
スレ:スレッシャー級 イー:イーサン・アレン級

横須賀

艦番号	艦名	滞在期間と日数	型
1 SSN698	アレマートン	1/5~1/13	9 スロス
2 594	パーミット	1/14~1/24	11 ススレ
3 697	インディアナポリス	1/23~2/3	12 スロス
4 595	ブランジャー	2/17~2/25	9 ススレ
5 647	ボギー	3/4~3/6	3 ススレ
6 594	パーミット	3/5~3/7	3 ススレ
7 595	ブランジャー	3/12~3/17	6 スロス
8 698	アレマートン	3/16~3/17	2 スロス
9 613	フラッシャー	3/29~4/9	11 ススタ
10 697	インディアナポリス	4/26~5/2	7 スロス
11 682	タニー	5/15~5/17	3 ススタ
12 698	アレマートン	5/16~5/17	2 スロス
13 595	ブランジャー	5/24~5/26	3 ススレ
14 603	ボラック	6/29~7/4	6 スロス
15 701	ラホヤ	7/25~7/29	5 スロス
16 701	ラホヤ	7/30	1 スロス
17 701	ラホヤ	8/14	1 スロス
18 609	サム・ヒューストン	8/20~8/25	6 スイー
19 CGN 9	ロングビーチ	8/24~9/2	10 ススタ
20 SSN682	タニー	9/29~9/30	2 ススタ
21 603	ボラック	10/1~10/4	4 ススレ

●のべ入港数 21(116)
(内訳) 原潜 20(106)
ロス級 8(39)
スタ級 3(8)
スレ級 8(53)
イー級 1(6)
水上艦 1(10) ()内は軽日数

佐世保

艦番号	艦名	滞在期間と日数	型
1 SSN698	アレマートン	3/1~3/4	4 スロス
2 595	ブランジャー	3/6~3/9	4 ススレ
3 682	タニー	7/10~7/14	5 ススタ
4 603	ボラック	8/27~9/8	13 ススレ
5 603	ボラック	9/18~9/19	2 スロス
6 711	サンフランシスコ	10/4~10/8	5 スロス

ホワイト・ビーチ（沖縄）

艦番号	艦名	滞在期間と日数	型
1 SSN682	タニー	8/19	1 ススタ

(5)

日米三軍合同演習を斬る

何にむけた「鋭利な刃」か？

キーン・エッジ

青木雅彦（トマホーク阻止京都連絡会）

皮肉なことに米ソ首脳会談のニュースにかき消された格好になったが、米ソ対決の最前線、北海道に日米三軍統合実動演習（米軍呼称「キーン・エッジ（鋭利な刃）」87）に参加する米陸軍部隊が到着した。この10月27日から行われる演習は、三軍を同時に動かす初めての訓練であり、内容的に自衛隊の演習としてはこれまでで最も重要なものである。また、在韓米空軍も初めて参加し、日米韓統合演習への道が開かれる。これによって日米共同訓練は最大のハードルを越え、今までの「予行演習」段階から「チームスピリット（米韓合同演習）」一型の実戦演習へと「脱皮」し全く新たな段階に入る。

●すてきな「ガイディング」が始まった

一般には意外に受止められるかもしれないが、この日米共同演習は全く80年代的な出来

事なのである。60年に結ばれた日米安保条約は「有事」の際日米両軍がどう連携するかについて具体的に触れておらず、両軍の合同演習も78年まで、海での小規模なものを除いておこなわれたことはなかった。それが78年11月に「日米防衛協力のための指針（ガイドライン）」（以下「指針」と略）なる一片の文書が閣議了承されて以来、せきを切ったように陸・海・空での日米共同演習が行われるようになったのである。この「指針」は安全保障協議委員会の下部機構の報告書という形をとっており、国会での討論すら経ていない。しかしこの文書はの中で①具体的な戦争計画である日米共同作戦計画（「日米共同作戦計画」の三つの策定 ②それを実行に移すための「必要な共同演習及び共同訓練を適時実施すること」 ③戦時の際の補給、輸送など



日米三軍合同演習「リムパック86」に参加する米海軍の艦隊（10月15日、横須賀入りから）

の「後方支援活動」を要求しており、紛れもなく安保条約の実質改訂を意味していた。

①の戦争計画については前の二つについてほぼ完成、②の共同演習は今回の三軍統合実動演習が究極の形態である。③の実施にはいわれる「有事法制」の制定が必要だが、すでに関係法令のリストアップが有事法制研究の第二分科として発表されている（84年10月防衛庁報告）。このように見ると「指針」による戦争体制はこれまでのところ、さしたる抵抗にも合わずに一応の「完成」一米軍にとってはまだまだ「改善」の余地があるが、を見つづけると考えるべきだろう。

（大坪一夫）

● 極東第二戦線論と 米核戦略への協力

すべて戦争計画にはシナリオが必要であり、その前提には一国の軍事戦略が存在する。そして日米共同作戦を規定するのはアメリカの現在の軍事戦略（ソ連を相手にする場合）は当然「核戦略」になる（であることは言うまでもない）。

今年の6月米国防省のソロモン政策企画局長が、欧州で戦争が起これば極東でソ連に対して意図的に戦端を開く、いわゆる「極東第二戦線論」をぶちあげたが、これはすでに83年度米国防報告で明らかにされたソ連の弱点へと戦争をエスカレートさせる「水平エスカレーション戦略」そのものであり、米軍が軍事的にいかにかこの地域を重視しているかを示している。

そもそも「指針」の制定は、ソ連がデルタ級弾道ミサイル原潜（米本土を狙う）をオホーツク海に展開したのときをおなじくしており、「指針」は自衛隊が米核戦略の一翼を担うことを暗黙に要求している。米空母やF-16などの核戦力を自衛隊が護衛する訓練はすでに実施されており、核トマホーク艦をソ連原潜から守ることもやがて行われるだろう。米軍の戦略は本質的にグローバルなものであり、この日米共同演習も米核戦略の世界地

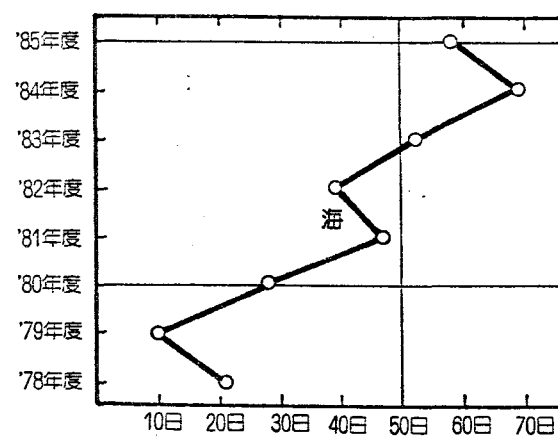
● 政治的側面としての 日米共同訓練

図の中に置いて初めてその意味が解かるものである。私たちが演習を批判する視点もこれまでの一国的な観点でなく、国際的な文脈でなければならぬ。

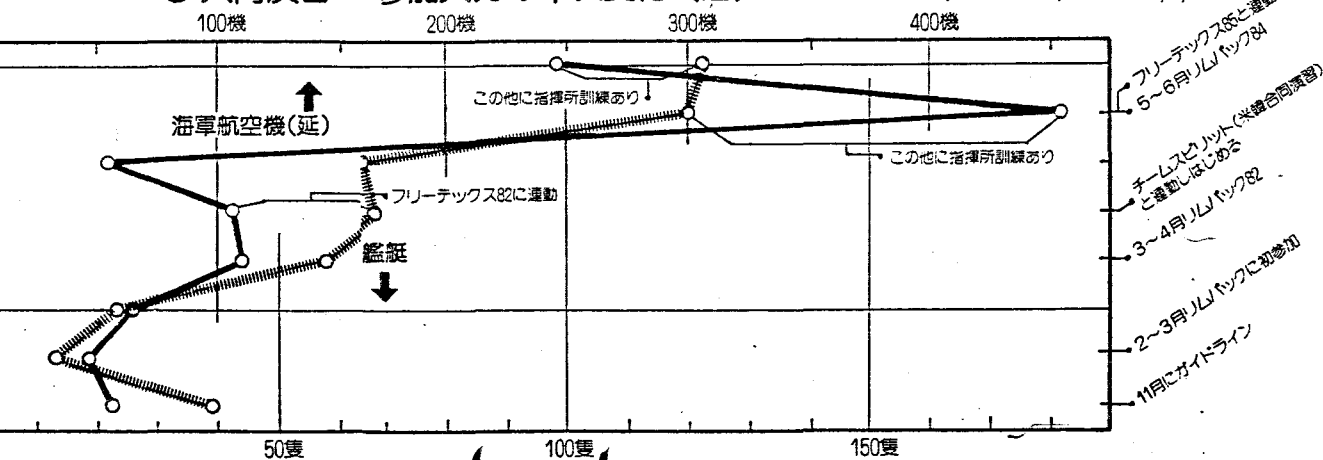
「極東第二戦線論」は、欧州で戦争が起これなければ極東は安全であることを保証するものではない。それどころか、欧州と違いくる軍縮のテーブルも存在しないこの地域は、日米韓、ソ連の無制限な軍拡競争の場となっており、米ソ首脳会談決裂後、核対決の最前線として増す危険な地（海）域になるうとしている。

したがって米軍としては今回の演習をテコにさらなる一歩を踏出すとするとだろう。それは新たな基地の提供（三宅島のように）や、NATOや韓国で行われているような演習場以外の土地をも強襲上陸演習などで使用させることも要求してくるだろう。無論これは日本国民にたいする挑戦であるが、実は日米共同演習自体が反戦世論に対する示威行為なのだ。三軍統合演習の後、11月下旬から陸自と海兵隊の演習が行われるが、これまで北海道・東北に限定されていた演習場を一転させて滋賀県のあいば野に移したのは、既成事実の「全国巡業」の始まりとして非常に政治的な策動といえる。

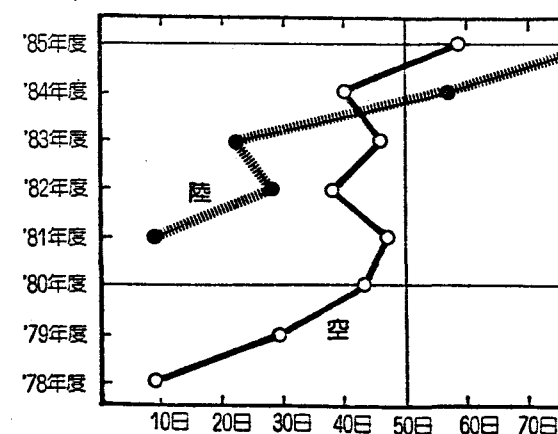
● 共同演習日数の年次変化（海）^{注1)}



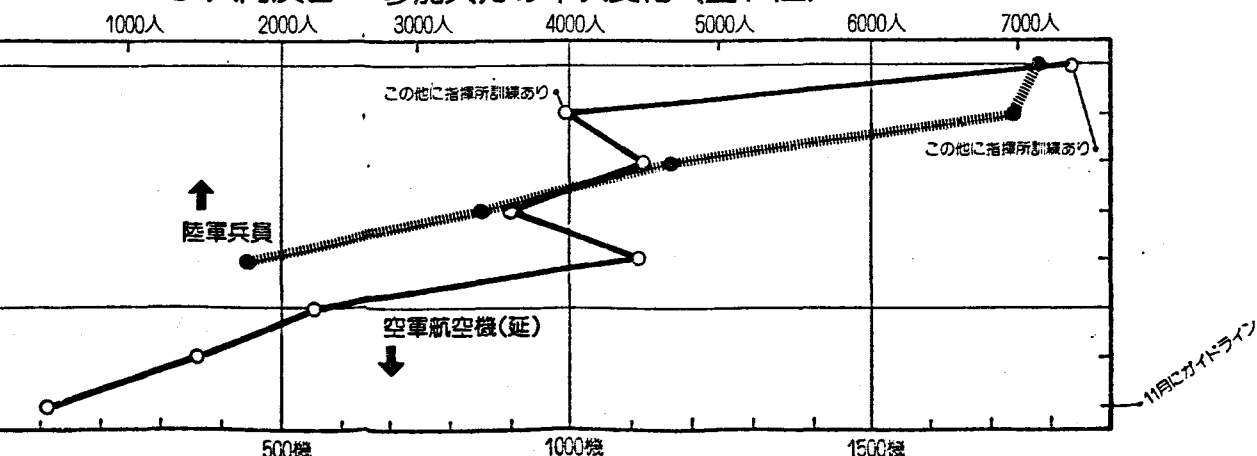
● 共同演習 参加兵力の年次変化（海）^{注2)}



● 共同演習日数の年次変化（空、陸）^{注1)}



● 共同演習 参加兵力の年次変化（空、陸）^{注2)}



78. 11. 27 「日米防衛協力指針」決まる。空で初の日米共同訓練（三沢、～12. 1）

80. 2. 26 空白「リムパック」に初参加。（～3. 18）

81. 10. 1 陸で初の日米共同訓練（通信訓練 東富士、～10. 3）

82. 2. 15 陸で初の日米指揮所訓練（「ヤマサクラ」滝ヶ原、～2. 19）

83. 11. 10 陸で初の日米実動演習（滝ヶ原、東富士、～11. 19）

83. 12. 12 空で初の日米指揮所訓練（府中、～12. 15）

84. 6. 11 海で初の日米指揮所訓練（横須賀、～6. 15）

85. 11. 21 「日米共同作戦計画」まとめ、首相報告

86. 2. 24 初の日米統合指揮所演習（～2. 28）

86. 10. 27 初の日米三軍統合演習

87. 11 「シーレーン防衛研究」まとまる

↑
このM=7.1-2は100
"AP"で"Q": 結果を57に
↓ 解説してあげる?

ニュージャーシー
 韓国の仁川に入港
 『ソウル十八日時事』米載
 艦「ニュージャーシー」(四五
 〇〇〇)が十八日朝、韓國
 の仁川港に入港しました。ニ
 ュージャーシーは、今月十日
 から日本海で同僚訓練に参加
 していました。同僚の韓國寄
 港は五日の釜山に続いて二度
 目、二十三日に出港するものと
 みられています。

三ニ・スクラップ情報

ニュージャージーのその後

「統合演習」のシナリオ

86.10.17
(A)

米統合演習のシナリオ
石狩平野で「迎撃」

空樹計巨機 艦艇計二十隻近くを動員するその演習の概要を明らかにした。しかし、シナリオについては言及を避けた。

千歳、苫小牧、室蘭等の都市
制庄の軌條には有利で、その意
味では合宜性がある、と分析し
てゐる。

◇

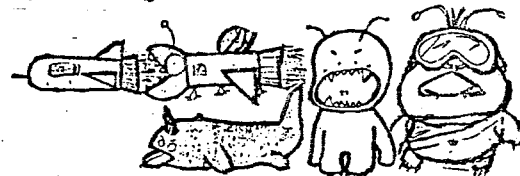
防衛庁の森繁弘・統合幕僚会
議議長は十六日記者会見し、初
の日米共同統合実動演習に日米
双方で計一万三千人が参加、航

しかし「キーン・エッジ」から始まる次の一步はまた彼等にとつても危険な一步である。かのソロモン局長も認めているように、「水平エスカレーション」はアメリカのために同盟国を最も危険な戦争に卷込むものであり、もし日本国民が共同演習の何たるかを知り、これまでの沈黙に代わつて異議を唱えれば、戦略全体が崩壊する恐れがあるからだ。その意味で今回の演習は極東ソ連軍に対する「キーン・エッジ」であると共に、米軍自身に対する「鋭利な刃」でもある。

今ヨーロッパや南太平洋で、アメリカの戦略は同盟国の政府の支持すら急速に失いつつある。独りわが中曾根内閣のみが無限定な協力を惜しまないという恥べき政策を実行している。共同演習は私たちに向けられた「刃」でもある。この「刃」が結局誰を傷付けることになるのか。すべては私たちの選択と行動にかかっていると言えるだろう。

(一九八六・一〇・一四 記)

1986.9.28 防衛庁長官 栗原裕幸殿



~~~~~ 反トホク 第8回全国会議

日米三軍統合実動演習中止を訴える緊急アピール

来月下旬、北海道を中心に、日米の陸・海・空合同の共同演習が行なわれようとしている。三軍が一体となった実動演習はこれまでになかったものである。今回の演習は一九七八年の「日米防衛協力指針」の要請に基づく日米合同演習の総仕上げであり、日米の軍事的な關係がNATOのそれと同様なものになるという、極めて危険な段階へと踏みこむことを意味する。

「新海洋戦略」、「極東第二戦線論」など今年になってレーガン政権の高官による極東での核戦争を示唆する言明が相次いでいる。そしてそれを裏打ちするかのように、去る八月二四日、米海軍は三隻の核トマホーク艦を日本の港に同時入港させた。「指針」に明示されているようにトマホーク、F-16などの中距離核兵器の日本配備と日米共同演習は完全に軌を一にするものである。

我々は、極東での軍事的緊張を高め、核戦争につながる今回の合同演習に絶対反対である。それは単に憲法を蹂躪するだけでなく、日本国民、朝鮮、アジア、ソ連の人達の生存する権利すら否定する内容を持つものである。「剣を取るものは剣によって滅ぶ」という我々は我が国の政府が歴史的な愚行を犯すことを黙認することは、決してできないのである。

貴殿の責任において、直ちに今回の演習を中止せよ。そして、核戦争につながる一切の日米共同演習も中止するべきである。

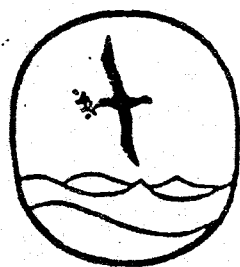
演習の概要

「期間」 10月27日～11月1日（10月16日）  
 26日の陸の日米共同訓練と、19日～25日の陸での日米指揮所訓練がこれに合流する

「場所」 北海道大演習場（恵庭市）、本州太平洋側海空域。

- 〔參加部隊〕 日米双方五千人、計一萬人
- 日本側 (陸) 第11師団第18普通科連隊
- (札幌) (海) 一個護衛隊群 (空) 一個航空団
- 米側 (陸) 第25師団(ハワイ) (海)
- (第7艦隊(司令部横須賀) (空) 第5
- 空軍(司令部横田) 第7空軍(司令部韓

# 会計報告と 未納金納入 のお願い



●お忘れの未納金や  
売り掛金はありますか  
早めにお知らせ!!

## ：反トマホーク第3次キャンペーン会計報告：

| ★収入       |            | ★支出   |         |
|-----------|------------|-------|---------|
| 会費        | 886,500    | 事務所家賃 | 675,000 |
| 宣言カンパ     | 590,300    | 電話代   | 213,731 |
| カンパ       | 298,247    | 電気代   | 13,089  |
| バッジ・資料等売上 | 53,540     | ガス代   | 9,653   |
|           |            | 文具類   | 171,700 |
|           |            | 水道料金  | 6,400   |
| 合計        | ¥1,828,587 | 郵送代   | 571,175 |
|           |            | 印刷費   | 308,000 |
|           |            | 集会賛同費 | 12,000  |
|           |            | 会場費   | 56,000  |
|           |            | 雑費    | 50,630  |

合計 ¥2,087,378

(85年10月1日～86年9月24日)

従って現段階では

収入-支出=-¥258,791 赤字

未収金の早期・確実な回収が必要です!!

### ☆未収金

|           |         |
|-----------|---------|
| 維持団体・個人会費 | 348,000 |
| 参加団体・個人会費 | 68,000  |
| 通信会員会費    | 10,000  |

合計 ¥426,000

空から写真をとられることも防がなければならない。あるいは、敵対分子や反体制分子が無線を傍受するかもしれない。そこで、音声通信の周波数を変化させて傍受出来ないようにする装置を使用するよう手引書に定められている。

●事故に際しても核の存在を否定も肯定もしない米国の政策は不変である。実際当局は故意にウソの情報を流して破損した核兵器を積載していることに對する関心をそらすとす



## 核兵器事故

NUCLEAR ACCIDENTS

(抄訳)

L・ザースキー／P・ヘイズ  
／W・ペロー 著

CURRENT AFFAIR BULEETIN 86. 6

ノルウェーで発行されているNAN（北大西洋ネットワーク）のニュース・レター「ポートウォッチ（PORT WATCH）」No.5（86.8～9月号）に掲載された同名の論文の抄録から、その要旨を紹介する。著者は、核兵器の事故に関する研究が、国や地域を超えて、国際的なレベルで進められていくべきである。また、核兵器の事故は、単に軍事上の問題ではなく、環境や健康への影響も大きい。この論文は、核兵器の事故の現状と、それを防ぐための対策について、詳しく述べている。（訳 田巻一彦）



●核兵器による大規模な事故はすでに何回も起こっている。もっともよく知られているのはB52爆撃機の二度にわたる墜落事故であるが、いずれも局地的に深刻なプルトニウム汚染を引き起こした。

●米海軍は核兵器事故を海洋核せんそうと同じように考えている。つまり、容易に隔離できるしコントロールも可能である、と。

●事故発生現場を米軍人以外立ち入り禁止にするという要求は、現地国にとっては一定期間その場所における主権を放棄しなければならぬことを意味する。

●NUWAX訓練ではより現実性を高めるために核兵器のプルトニウムに擬して放射性のラジウム二二三を「帯」にばらまいている。

●事故による汚染は米国内での実験条件下でさえあまりに困難な問題を抱えているが、これが海外での事故となるとなおさらだ。米国のこれに對するプランはただちに使用可能な通信衛星を捜しだし、無線通信装置を現場に運びこむことを要求している。この拠点はフィリピン、米海軍通信基地であると思われる。ここには不慮の事故にそなえて可搬式の通信装置が待機している。

●米軍は核兵器に関する機密を守りぬこうという方針である。したがって、破損した核兵器に近付くことが出来るのは「機密核兵器設計情報」を明かされている米軍人だけである。

●国内での事故に適用されているこの制約は、海外の事故ではより厳密に適用されると考えるのが論理的である。これは過去にも実例がある。

●事故発生現場を米軍人以外立ち入り禁止にするという要求は、現地国にとっては一定期間その場所における主権を放棄しなければならぬことを意味する。

●外形や外観からも核兵器の機密は知ることが出来る。現場を近付いて見られることも上



# 各地から

【京都】

日米三軍統合演習に反対して10月16、18日に四条河原町でピラマキ。10日にはあいはの演習場へ反対行動も行った。10月21日には「日米安保体制を打ち破ろう! 10・21国際反戦デー京都集会」11月中旬には更に署名運動、抗議行動、あいはの演習反対集会等を計画。「トマホーク阻止京都連絡会」(〇七五―二五五―二六―吉田方)―

【愛知】

11月15日、日米統合演習に反対して名古屋市内で学習会。あいはの演習時にあわせて同市内で抗議のピラマキも予定。「愛知はんせんの会」(〇五二―七六二―五一八―川名文庫気付)―

【埼玉】

中曽根首相も参加する朝霞観閲式に抗議して「10・26つばせ自衛隊朝霞観閲式集会・デモ」朝霞駅前に朝九時より集会、九時半デモ出発。浦和市民連合、戦争への道を許さない女たちの会・埼玉、埼玉反戦青年委員会の呼びかけ。

【東京】

反原発週間の連続行動。10月25日「昔、原発というものがあつたという日をつくる東京集会」高木仁三郎、近藤和子の両氏に田中三彦氏(原子力技術者)を加えた講師陣で北海道・下北からもアビールが届けられる。東京勤労福祉会館で六時開会。カンパ五百円。主催は実行委。10月26日、チエルノアイリ事故からちょうど六ヶ月目の反原子力の日に「10・26原発を止めよう! 大行動」十二時より日比谷小音楽堂にて「STOP原発FES」和太鼓、アトミックカフェ・バンドなど盛り沢山の歌と演奏。三時より銀座繁華街に向けて「STOP原発フリーデモ」反原発東京行動主催。「反核パシフィックセンター」東京(〇三―八―五一―一六四八)―

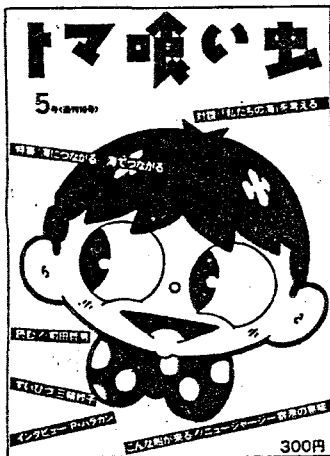
【横浜】

「全国運動」と生活クラブ生協の主婦有志が原発事故対策について県知事に申入れ「原発入港拒否」「非核コード作り」「市民を含めた事故防災研究グループ設置」等を求めた。上瀬谷基地では「統合演習」をにらんだ基地監視。「ウドの会」(〇四五―三六三―一―一―内線四二五富永気付)―

【廣瀬】

10月18、19日市民と労働運動が本格的に合流して開いた「ヨコスカ・ピース・フェスティバル86」は参加者三千人と大盛況。県と市も後援した画期的な取組みだった。次号で詳報。

最新号!



発行/トマ喰い虫社

「トマ喰い虫」5号——300円

●特集 海につながる、海でつながる  
対談(梅林宏道+ネルソン・フォスター)  
核実験の島(荒川俊児)/海洋汚染の  
行くえ(水口憲哉)/ニュージャージー  
寄港の意味(新倉裕史) ●ずいひつ(三  
輪妙子) ●私の主張(太田武二) ●イン  
タビュー(ピーター・バラカン) ●トマ  
喰い虫訪問(木風舎) ●地域から ●三宅  
島レポート(寺澤晴男) ●トマホーク・  
データ ●基地と海洋戦略(前田哲男)